

平成25年度 第41回 千葉県中学校バスケットボール選手権大会 総評

千葉県バスケットボール協会主催の第41回千葉県中学校バスケットボール選手権大会は6月1, 2, 8, 9日の4日間、成田市体育館をメイン会場に行われた。今大会は夏の総体や秋の新人戦に比べ、各支部から多くのチームが参加でき、各地区の多くの選手たちの活躍が見られる大会である。

男子のベスト4にはシード校の習志野台中(船橋)、真砂中(千葉)、習志野四中(習志野)、行田中(船橋)が残り、新人戦ベスト4と同じ顔ぶれとなる。男子準決勝の習志野台中対行田中は、船橋地区大会の決勝戦カード。公式戦の戦績は2勝1敗で習志野台中の勝ち越し。序盤から習志野台中のロングシュートがよく決まり、落ち着いたゲーム運びを見せる。行田中も粘り強いリバウンドで食い下がるも習志野台中リードのまま試合終了。習志野台中が連覇に向けて駒を進めた。また、習志野四中対真砂中は最終ピリオドまでもつれる大熱戦となったが、大事なシュートを確実に沈めた真砂中が習志野四中を振り切った。

男子決勝では、新人大会の決勝戦と同一カードとなる習志野台中と真砂中との一戦となった。リベンジをねらう真砂中は、序盤からゾーンディフェンスを仕掛け、習志野台中にリズムを作らせない。対する習志野台中も速いパス回しでゾーンを崩そうとするも、外角シュートがゴールに嫌われ、なかなか点につながらない。真砂中は粘り強いリバウンドから、④小林、⑦近藤らのシュートがよく決まり、習志野台中を突き放していく。第4Q、習志野台中は⑥富澤の3ポイントなどで10点差まで追いつがるも、点差詰まらず試合終了。真砂中が学校としても千葉支部としても初めての選手権大会初優勝を飾った。

女子のベスト4には、新人戦に続く連覇、そして今大会4連覇をねらう王者昭和学院中(市川・浦安)、新人戦のリベンジをねらう七林中(船橋)、八木が谷中(船橋)、ノーシードながら勝ち上がってきた海神中(船橋)が顔をそろえた。激戦区の船橋地区の学校がベスト4に3校残るのは実に今大会20年ぶりである。

女子準決勝の昭和学院中対海神中は第1ピリオドから昭和学院中のペースとなる。インサイドとアウトサイドでバランスよく得点を重ねる昭和学院中が決勝へと駒を進めた。また、八木が谷中対七林中の対戦では、前半両チームのペースのつかみ合いが続くも、後半に入り七林中のペースに。最後は七林中が船橋地区王者の賞禄を見せ、決勝進出を決めた。

女子決勝では昭和学院中、七林中ともにハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。序盤、七林中が④松本、⑤城内、⑥福本らのドライブなど速い展開のオフェンスでリードを広げる。昭和学院中は④赤穂・⑥佐々木のポストプレイを中心に確実に得点を重ねて逆転し、一進一退の攻防が続く。後半に入り七林中は⑦麻生、⑧加藤が得点し追撃を図る。対する昭和学院中も④赤穂の1 on 1、⑤小島、⑥佐々木のポストプレイなどで得点を重ねる。第4Qに入ってもシーソーゲームが続くが、残り7.9秒2点差を逃げ切った昭和学院中が4年連続15回目の優勝を飾った。

最後に、TO指導や会場の準備など開催地である印旛支部の役員、関係者の皆様のご尽力により大会を無事終えることができました。同時に、県大会には出場できなかったものの、生徒役員という形で駐車場係、TO、接待などを意欲的に取り組んでくれた印旛支部の中学校バスケットボール部の生徒たちにも感謝いたします。

男子	優勝	千葉市立真砂中学校
	準優勝	船橋市立習志野台中学校
	第3位	習志野市立第四中学校 船橋市立行田中学校
	ベスト8	成田市立西中 八千代市立大和田中 富里市立富里南中 市川市立福栄中

女子	優勝	昭和学院中学校
	準優勝	船橋市立七林中学校
	第3位	船橋市立海神中学校 船橋市立八木が谷中学校
	ベスト8	野田市立福田中 習志野市立第七中 千葉市立緑町中 浦安市立入船中

文責 県中学生バスケットボール連盟 中村 圭吾(富里中)